

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室、入試部
大項目	5 学生の受け入れ 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。【担当部局：学長室】	
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針	
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。【担当部局：入試部】	
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。【担当部局：学長室】	
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。【入試部】	
要素		

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 入学定員に占める一般選抜入学試験の入学者と各種入試の入学者の比率を各学部において6対4とする。	→各学部において一般選抜入試：各種入試＝60：40を達成すること	B	B			
2. 入学試験成績開示について、不合格者で請求があった者に対して実施する	→不合格となり成績開示要求を行った者への開示数	A	A			
3. スポーツ能力に優れた者を対象とする入学試験を全学部で実施すること	→スポーツ能力に優れた者を対象とする入学試験を全学部で実施すること	C	A			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

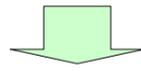
小項目5.0.1	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
	(方針の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 方針を設定している <input type="radio"/> 方針は設定していない (明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない (受け入れ方針) 入試形態毎に募集要項等において、アドミッションポリシーを明示している (説明) 新基本構想において、本学のめざす人間像を明示し、各入試形態毎の入試要項に受け入れ方針を明示している。修得知識・水準までは記載していないが、求める知識の大枠は明記している。障がいのある学生の受け入れについては、大学入試センターの基準を準用して対応している。方針の明示は個別対応であるので、相談窓口を明記している。
小項目5.0.2	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
	(説明) 学生募集にあたっては、大学案内や入試ガイド、ホームページなどの媒体を利用して広く告知を行うとともに、入学試験要項において選抜方法を明記している。2010年度より2011年度に受験生に配布できるよう、各学部での学びについて深く知るための学部読本を作成開始した。また、入学者選抜を適切に行うため、入学試験問題の検証を外部機関に委託している。さらに、入学者選抜において透明性を確保するために、入学試験結果を公表しており、2010年度において193名500件を開示した。なお、単に入試結果を公表するだけではなく、入学試験問題集を本学自らが発行して解答、正答率などを公開している。大学自らが入学試験問題の解答を公表することは、極めて稀であり、困難の伴う取り組みであるが、透明性を保持するための意義は大きく、継続して実施している。

☆

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	引き続き、入試要項に方針を明示している。毎年記載内容を点検し改善している。
小項目5.0.2	継続して入学試験問題集において解答を公表している。問題の解答を公表するために、入学試験問題の検証が十分になされ、本年度の出題ミスは皆無となった。その他入学者選抜の方法の公表、入学試験結果の開示を継続して実施した。
★小項目5.0.3	引き続き、定員充足率を4月学部長会にあげ、超過、不足について確認している。
小項目5.0.4	入学者追跡調査・入学試験制度評価により入学者選抜の適切性を検証することができた。これらは報告書としてまとめられている。
その他	



【次年度に向けた方策(1)】**伸長させるための方策**

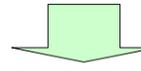
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	継続して入学試験問題集において解答を公表する。解答の公表そのものは、「継続そのものが困難」な取り組みであるが、入学試験問題の検証を行いつつ、引き続き実施する。
★小項目5.0.3	志願者動向を的確に捉え、可否判定時の客観的資料を充実させ、より精度の高い判定を行う。
小項目5.0.4	入学者選抜の適切性を検証するための入学者追跡調査・入学試験制度評価について、本年度は通年の成績データを基本とし、新たな指標も追加してこれを実施する。
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	入試志願者の動向によっては学生定員の削減も視野に入れるべきであるが、教育水準の維持や教員定員の問題等幾多の問題がある。
小項目5.0.4	追跡調査システムの構築にあたっては予算上の制約により、全学年分のデータを網羅することができていなかった。また、学内にデータが散在していることによって追跡調査のための資料作成には困難が生じる。
その他	



《次年度に向けた方策(2)》**改善方策**

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	
小項目5.0.4	入学者追跡調査・入試制度評価が適切に行われるよう、全学的なデータベース構築の必要性と予算措置について訴求する。
その他	

◎**自由記述**

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

- 一般選抜入学試験の入学者の割合が2年連続して目標の6割から5割に低下しているが、何か方針に変更があったのであれば記述してください。
- 入学試験の成績開示については2010年度において193名500件の開示実績とあるが、これが十分な水準のものなのか、Aと判断されている根拠を提示してください。
- スポーツ入試を全学部で導入することは達成できたのか、記述を加えてください。
- 入学者追跡調査・入学試験制度評価ワーキンググループの検証結果について、その内容に言及してください。

【学内委員】

- 立てた「目標」に対し、おおむね達成されているという点で、努力は評価できます。
- 但し、達成された目標が新たな課題を生むという面もあるでしょう。たとえば、推薦入試など各種入試が4割になり、スポーツ推薦が全学で実施されるとなると、入学生の学力担保や補習的学習の提供が別の課題としてクローズアップされるかもしれない。そうした点も踏まえて新たな目標の設定も望まれます。
- 入学者追跡調査、入学試験制度評価は意義深い企画であるので、今後も継続的な実施を期待したい。
- 学生の受け入れについては、方針の明示及び入学選抜の実施の全体にわたり、適切に行われており、評価できます。一般入試入学者の比率が50%程度になっていますが、6:4にするという目標について、50%程度がBということでしょうか。現状説明の小項目5.0.1の最後の一文、同5.0.2の入学試験結果公表の内容、がいずれも、わかりにくいところがあります。
- 「入試形態毎に募集要項等において、アドミッションポリシーを明示している。」とのことですが、情報の公表の頁にアドミッションポリシーが示されています。そのURLを貼り付けるとかの工夫が必要ではと思われまます。
- 追跡調査システムに基づき定期的に検証を行う取組は評価に値します。
- 学生の受け入れ方針が明示されたことは評価できます。
- 大学基準協会は、学生の受け入れ方針は「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」としています。昨年度の学内第三者評価においてもコメントしましたが、ホームページでの公表について説明が必要です。
- 既に達成された目標については、新たな目標を設定することをお考えください。
- 進捗評価が「A」であった目標（目標2&3）については、効果が上がっている事項に必ず記述をお願いします。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

- ・明示については、現在はホームページでの明示が重要です。このことも含めてお考えください。また、入試要項だけでなく、入試ガイドへの明示も必要です。入試ガイドにはAO入試のアドミッション・ポリシーは記載されていますが、学部のアドミッション・ポリシーは記載されていないようです。
- ・自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことのわかる必要があります。そのためにも、全小項目についてもう少し詳しく現状説明されることを希望します。
- ・受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）はどのようなものとするのか、現在のもので十分なのか、絶えず議論が必要でしょう。現在明示されていない「修得しておくべき知識等の内容・水準」など、検討課題があると考えられます。
- ・小項目5.0.3については、現状はどうであるのかの記述が必要です。そしてそれに対してどう対応するのが重要です。
- ・外部機関による入学試験問題の検証は難しい問題もあるでしょうが、重要なことだと思います。
- ・「飛び入学」についてはどうなったのか説明をお願いします。
- ・特定6項目データを明示しています。この説明を簡潔にすることで現状説明も有効なものとなります。
- ・追跡調査は長年の課題であり、その分析、結果、対策に期待します。
- ・目標の現状や達成状況についての説明を現状説明で触れてください。それぞれの小項目で説明が可能で、現状説明がより一層わかり易いものとなります。
- ・目標2の「指標」は、開示数ではなく、開示の実施の有無が適当でしょう。「指標」を開示数とするなら、「開示制度の周知」が「目標」となるのでしょうか。再検討されてもいいと思います。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

《実験・実習を伴う分野(心理学、社会福祉学に関する分野を含む)》

1.20以上：努力課題

1.25以上：改善勧告

《医学・歯学》

1.00以上：努力課題

1.05以上：改善勧告

《上記以外の分野》

1.25以上：努力課題

1.30以上：改善勧告

《未完成学部》

いわゆる「届出設置」の場合は、前身となる学科等の状況を勘案するなど、条件に応じて判断する。

※【定員未充足の場合の提言指針】

《全て》

0.9未満：努力課題

0.8未満：改善勧告

《未完成学部》

定員超過の場合の提言指針に準じる。

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる

（なお、定員の超過が留年者数の増加によるものである場合は、その事情を考慮する）

※【定員未充足の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる。

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

※【定員超過の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

1.30以上：努力課題

《未完成学部》

1.30以上：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

※【定員未充足の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

0.7未満：努力課題

《未完成学部》

0.7未満：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のこと

ことが明らかであるかに留意する。）

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述



一部名称が異なる学部があるが、スポーツ推薦入試については法学部が導入し、全学部で実施されている。